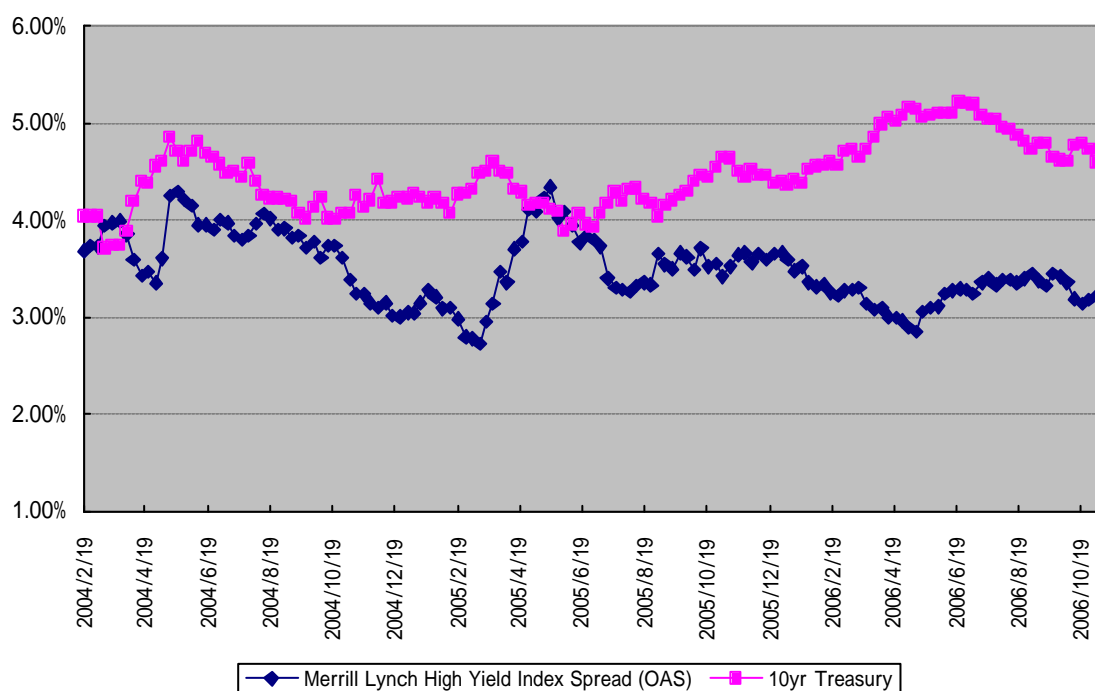


米国社債市場

市場コメント(11月18日～24日の週)

感謝祭の週だったこともあり、全般的に閑散、目立った出来事も無い週だった。その間隙を縫う形で24日はドルが急落、対ユーロはさすがに2004年の1.37まで距離があるものの、それ以外の所謂マイナーカレンシーに対して弱含んでいる点は注目に値しよう。例えば、週明け27日、シドニーではオーストラリア・ドルが対米ドルで0.78ドルを超えて始まり、1年6ヶ月ぶりの高値となっている。オーストラリアのケースのように、いくら利上げの影響があるにせよ、米ドルの売られ方は激しい。こういった通貨の動き(ドル安)がクレジット市場のボラティリティー上昇の前触れになったケースは枚挙にいとまがなく、クレジット市場に対する警戒が必要であろう。

ハイ・イールド債券スプレッドと米国10年債利回り



本資料は、証券投資の参考となる情報の提供を目的としており、証券の売買勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は信頼できるとされる情報に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。